

2024 年度の省エネルギー対策の総括

義塾において 2024 年度に消費したエネルギー全体の使用量と目標設定における前年度の使用量とをエネルギー消費原単位（※1）の数値で比較して評価を行った。カーボンニュートラル化の推進とエネルギー（電気・ガス）コストの高騰に対応するため、省エネ法で定められた目標値（エネルギー消費原単位を年平均で 1%以上低減）より高い省エネルギー目標として「各キャンパス単位でエネルギー消費原単位を 2023 年度比で 2%以上低減する」と設定し省エネルギー対策を実施した。

※1 エネルギー消費原単位

異なる単位を用いるエネルギー（電気・ガス）の使用量を合計するために、各エネルギーを熱量換算し、その合計値を各キャンパスの延べ床面積で除して「エネルギー消費原単位」を算出する。

■年間エネルギー消費原単位比較

2024 年度は 2023 年度と比較して、冷房期間（6～9 月）の平均気温は同等であったが、暖房期間（12～3 月）の平均気温が約 0.5℃低かった（12 月-1.3℃、1 月-0.5℃、2 月-1.5℃）影響で、暖房および給湯需要増によりエネルギー消費量が増加した。また、例年は原則として空調設備を運転しない中間期（4/11～6/14、10/1～11/14）においても、授業・業務環境維持のために冷暖房運転を可能とした影響で、この期間のエネルギー使用量が増加した。これらの影響により、三田キャンパス（前年度比 98%）、芝共立キャンパス（前年度比 94%）を除く 4 キャンパスのエネルギー消費原単位が前年度並みまたは増加、全キャンパスでは前年度並み（100%）となった。

照明器具 LED 化の積極的な推進や空調や換気設備の効率的な稼働など省エネルギー対策の効果が、平均気温の変化や空調運転要求の増加によるエネルギー消費量増加で相殺されている状況である。

年間エネルギー消費原単位比較（単位：MJ/m²・年）

	2023 年度 エネルギー 消費原単位 ※2	2024 年度 エネルギー 消費原単位	2023 年度との比較	
			差異	差異 比率
三田キャンパス	736 (729)	724	-12	98%
日吉キャンパス	860 (800)	849	-11	99%
矢上キャンパス	2,104 (2,094)	2,104	±0	100%
湘南藤沢キャンパス	779 (771)	803	25	103%
芝共立キャンパス	1,806 (1,797)	1,703	-103	94%
信濃町キャンパス	2,841 (2,801)	2,854	13	100%
主要 6 キャンパス	1,563 (1,531)	1,560	-3	100%

※2 省エネ法改正により都市ガスの熱量換算係数が変更されたため、2023 年度エネルギー消費原単位を変更している。

（）内は変更前の数値。

以 上